

地域素材を生かしたキャリア教育

～地域を知り、体験から学ぶ将来への道のり～

教科・領域 総合的な学習の時間

萩市立越ヶ浜中学校 2・3 学年

キャリア教育の視点

2 学年での職場体験や農業体験、また 3 学年での地域の特色や素材を生かして活躍している企業への訪問を通して、将来の職業を主体的に選択することができる基盤づくり及び、地域の一員として、地域の発展に貢献する人材育成を図る活動です。ねらいは次の 4 つです。

- ① 将来の生き方が職業生活と深く関わることを理解させ、自分にふさわしい生き方を実現しようとする意欲や態度、能力を育てる。
- ② 職業にかかわる人との出会いを通して、自己の生き方を考える機会とする。
- ③ 体験先の仕事が社会や地域に貢献していることを実感することで、職業には生計を維持するだけでなく、自己の能力や適性を発揮し、社会の一員としての役割を果たす意義があることを理解する。
- ④ 郷土の人・産業・商品などの特色に目を向けさせ、そのよさを理解するとともに、学ぶこと、働くことへの意欲、郷土の発展に貢献しようとする意欲を高める。

【自己理解・自己管理能力】【人間関係形成能力・社会形成能力】

地域の方々との関わりを通して発見する将来の自分

本校では、次の点に留意して 2 学年で職場体験学習を実施している。体験学習を計画するにあたっては以下の点に留意した。

生徒は一人 1 事業所で 3 日間の体験学習に取り組む。そこで、生徒の体験先を決定するにあたっては、まず、どのような職種に関心があるかを把握した上で、面接を行いながら具体的な事業所の検討・調整という手順をとった。現時点で、生徒が職業に関してどの程度理解し、意識をもっているのかを確認するとともに、関心のある事業所で体験することで、3 日間の体験に積極的に取り組めるようにするためである。

それぞれの目標をもって職場体験に臨んだ生徒は、体験中に生じた問題も自分自身の力で解決しながら取り組んだ。3 日間の体験を終えた生徒の表情には、やり遂げたという達成感があふれていた。



地域の基幹産業への関心を深めさせる

萩市は観光都市というイメージが強いが、第一次産業の就業者数や生産額における第一次産業の割合は大きく、県内でも有数の農林水産業地域と言える。「萩・あぶらんど」の米、「千石台大根」、「山口あぶトマト」などの農産物や「萩の瀬つきあじ」、「萩の真ふぐ」、「須佐男命（みこと）いか」など、ブランド品も多い。

ところが、近年、萩市内へ就労する若者が減り、特に第一次産業に就労する若者が少なく、後継者不足が問題となっている。本校生徒には身近に漁業や水産物加工で生計を立てている人が身近にいるため、漁業に関する仕事内容を知ったり、職業観にふれたりする機会はあるが、農業に関してはその機会が少ない。

そこで、2年生で職場体験の一環として農業体験を実施した。ともすれば、販売などのサービス業を体験先として選ぶ傾向のある生徒に農業体験をさせることで、将来の職業選択の幅を広げたいと考えたからである。

生徒は5月は2日間かけて、約1反の水田に稲苗を植え、9月末に1日かけて稲刈りをした。この体験をするにあたっては、事前に萩市役所農政課の方に講義していただいたり、体験中に指導していただいた若い農業従事者の方にお話を聞いたりした。生徒は、疲れを感じたものの充実感や収穫の喜びを感じることができた。また、農業は我々の食生活を支える重要な産業であることに改めて気付いた生徒もいた。



全国へ発信する企業に学ぶ

本校の生徒は、萩地域で働いている親の話などを通して、郷土には就労場所が少ないばかりでなく給料も安いというマイナスイメージをもっており、市外・県外への就職を希望する生徒も多い。

そこで、3年生で、総合的な学習の時間に、TAKE Create Hagi（タケクリエイイト萩）を訪問し、経営者に話を聞く体験を行った。

将来の地域社会・産業をになう生徒の地場産業へのマイナス・イメージを払拭するため、身近に商品開発を行ったり、地元の特産物の販路を全国・海外へと広げたりしている元気な企業があることを知らせたいと考えたからである。

タケクリエイイト萩は、山口県に多く利用されるものはごくわずかでそのほとんどが始末されてしまう竹に注目、「曲げ加工法」などの独自の技術を開発し、竹製家具・インテリアの製造に成功した企業である。エコでクリエイティブな暮らしの創造を提唱している企業で、日本だけでなく海外からも受注のある企業である。

やる気と発想力で困難を克服し、活躍している経営者の講話を聞くこの体験は、将来への不安を解消し、郷土で働くことへの意欲を高めるきっかけとなった。



考察・課題

生徒は、職場体験や農業体験、郷土で活躍している企業を訪問し話を聞く体験を通しては、職種や職業選択に関する視野を広げることができた。また、体験先での失敗や成功体験を通して、新たに自分の弱さやよさを発見することができた。さらに体験先でほめられた経験や他の人に喜んでいただいた体験を通して、自己肯定感を高めることができた。また、出会った方々の勤労観や職業観に触れ、学ぶことの大切さを知ることができた。体験して感じたことを振り返ったり、お礼の手紙をかいたりする活動を通して、働くことの意義、将来の進路について考えることができた。

今後さらに体験を効果的なものにするためには、各教科や道徳、特別活動などのさまざまな領域との関連を図った単元づくりを工夫する必要がある。また、実践事例や資料、人材バンク等を整理・蓄積する必要がある。これらのことを改善しながら、計画的・組織的にキャリア教育を進めていきたい。

全体計画との関連

